

甲斐市議会 厚生環境常任委員会 会議録

1. 開催日時 令和6年11月15日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（8名）

委員長	清水和弘君	副委員長	保坂康君
	山本英君		依田那津希君
	加藤敬徳君		谷口和男君
	滝川美幸君		金丸寛君

欠席委員（なし）

傍聴議員（1名）

議長 秋山照雄君

説明のため出席した者の職氏名

子育て健康 部 長	戸澤文香君	子育て支援 課 長	樋川浩一君
保育係長	櫻田良文君		

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	中澤一昭	書記	藤井涼子
書記	深澤隼人		

内容

1 第1期甲斐市こども計画（案）について

開会 午後 1時25分

○書記（深澤隼人君） ご参集大変お疲れさまです。

それでは、ただいまから厚生環境常任委員会を開会いたします。

本日の委員会は、初めに委員長よりご挨拶をいただきまして、委員長の進行により進めてまいります。

それでは、次第2、委員長挨拶。

清水委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長（清水和弘君） 皆さん、改めてこんにちは。

こここのころの天気の見合をじていますと、非常に朝方寒くて日中は暑くなるという気候の変動が激しいわけで、私の周辺にも、風邪を引いたり、また新たにコロナなどの声かぼちぼち聞かれるような季節でございます。12月の定例会に向けて、ぜひ万全な健康状態を維持して臨んでいただきたいと思ひます。

本日は、議題としては、第1期当市こども計画（案）についてということになります。1案ではございますけれども、ぜひ皆さん方の集中審議をよろしくお願ひいたしまして、挨拶とさせていただきます。

ただいまの出席委員は8名です。定足数に達しておりますので、これより厚生環境常任委員会を開会します。

○委員長（清水和弘君） それでは、これより次第3、内容に入ります。

初めに、（1）第1期甲斐市こども計画（案）について、担当より説明をお願ひいたします。

樋川子育て支援課長。

○子育て支援課長（樋川浩一君） お疲れさまでございます。

子育て支援課から、第1期甲斐市こども計画（案）について説明をさせていただきます。資料の1ページをお願ひいたします。

第1期甲斐市こども計画は、こども基本法第10条に規定する市町村こども計画として位置づけ、子ども・子育て支援事業計画、子ども・若者計画、子どもの貧困対策推進計画を一

体のものとして策定しております。

本計画におきましては、現行の第2期甲斐市子ども・子育て支援事業計画の基本的な考え方を踏襲しながら、子ども・子育て世帯のみでなく、対象をおおむね40歳未満の青年期まで広げ、基本理念を「全てのこどもと若者の“かいてき”な成長と活躍を創出するまち」とし、本計画に沿った取組を推進してまいります。

1、計画期間であります。令和7年度から令和11年度の5年間としております。

2、策定体制ですが、(1)につきましては、甲斐市子ども・子育て会議条例第3条に定められております子ども・子育て会議、また、(2)庁内関係部署係長で構成しておりますこども計画策定に係る庁内ワーキング会議による体制としております。

次に、3、策定経過になりますが、(1)令和6年6月5日の厚生常任委員会及び(2)6月10日の第1回甲斐市子ども・子育て会議におきまして、こども計画及びニーズ調査の概要について説明をさせていただきました。

(3)7月10日から7月29日までの間、ニーズ調査、こども・若者意識調査、子どもの生活実態調査を実施いたしました。

2ページをお願いいたします。

(4)8月30日には、①「甲斐市の人口減少を食い止めるために必要なことは何か考えよう」、また、②「①の解決に必要な甲斐市のこども・若者施策を考えよう」をテーマに、大学生を対象としたワークショップを実施いたしました。大学生の意見では、子育て支援を手厚くしてほしい、交通が不便である、遊び場がない、就職先が少ないなどが挙げられ、行政や地元企業、地域が連携したまちづくりなど、魅力あるまちづくりについて活発な意見が交わされました。

(5)9月25日には、「甲斐市をこどもまんなか社会にしよう」をテーマに、敷島中学校でワークショップを開催いたしました。中学生の意見では、自然が多く、人の雰囲気の良い、図書館や公園の設備が整っているのが甲斐市のいいところであるが、中学生が住みやすいまちにするために、遊び場やお祭りやイベントを増やしたらどうかという意見や、交通面で街灯を増やしてほしい、道を広げてほしいなどの生活に身近な意見が多く出されました。

(6)10月8日の第2回子ども・子育て会議におきましては、計画の基本理念・基本目標、体系図の検討を行いました。

(7)10月17日の庁内ワーキング会議では、施策の推進、取組項目の検討等を行い、10月下旬から11月上旬にかけて関係部署との個別協議を実施いたしました。

(8) 11月14日の第3回子ども・子育て会議におきましては、ニーズ量の検討及び素案の説明を行い、意見などをいただいております。

次に、4、基本理念・基本目標になります。

基本理念は、「全てのこどもと若者の“かいてき”な成長と活躍を創出するまち」、また、基本目標は、以下の3目標となっております。

5、主な取組になります。

(1) 令和7年度にこども家庭センターの設置を予定しており、全ての妊産婦、子育て世帯、子供へ一体的に相談支援を行う機能を有する機関とし、子育て世帯へのさらなる包括的相談支援の拡充を図ります。

(2) (仮称)篠原地区公園内こども体験学習施設の整備につきまして、子育て世代のほか多世代が交流可能な新たな場とし、子供とその家族が毎日通いたくなるような魅力ある施設づくりを進めます。

(3) 子供・若者を対象にした取組の追加につきましては、対象を39歳までとしたことにより、婚活、創業支援等を新たに追加しております。

続きまして、6、計画素案の骨子になります。

第1章、計画策定の概要から始まり、3ページをお願いします。第2章、統計データなどから見る本市の状況、第3章、計画の基本方針、第4章、施策の推進、第5章、子ども・子育て支援給付及び地域の子ども・子育て支援事業の充実、第6章、計画の推進体制の6章立てで構成し、最後に資料編を加える予定であります。

次に、7、今後の予定になりますが、本日以降、11月28日に甲斐市保健福祉推進協議会におきましても内容説明をさせていただいた後、12月16日から令和7年1月8日までの間パブリックコメントを実施し、広く市民の皆様のご意見を求めることとしております。委員の皆様、市民の皆様からいただいたご意見につきまして事務局側で集約をさせていただき、令和7年2月に常任委員会、子ども・子育て会議及び保健福祉推進協議会にて最終案を提示させていただきます。その後、3月に計画書の公表をさせていただきたいと考えております。

それでは、別冊資料「甲斐市第1期こども計画」について抜粋して説明させていただきます。

最初に、計画の構成でございますが、表紙をめくっていただきまして、目次をご覧ください。

章立てとしましては、先ほど資料に基づき説明いたしました全6章から構成しております。

それでは、各章について概要を説明いたします。

1 ページをお願いします。

第1章、計画策定の概要になります。

こちらでは、本計画の策定の背景としまして、資料の頭書にご説明した内容を掲載しております。

2 ページをお願いします。

本計画の位置づけ、役割等を記載しております。今年度、上位計画であります甲斐市総合計画、また創甲斐教育推進大綱を作成していることから、それぞれの計画と整合性が取れるよう策定を進めております。

5 ページをお願いします。

第2章は、統計データなどから見る本市の状況を掲載しております。

続いて、35ページをお願いします。

3、各種アンケート調査から見る現状になります。

アンケートの回収率につきましては、おおむね半数の方からの回答を得ることができました。

38ページからは調査結果の抜粋となっております。

続いて、66、67ページをお願いいたします。

こちらはアンケート調査から見る現状や課題についてまとめたページになっております。結果から見える現状とその課題を取りまとめ、第3章以降の取組へとつながるように策定しております。

69ページをお願いします。

施策の体系につきましては、基本理念の下に3つの基本目標を設定し、それぞれの目標にひもづく形で基本施策を設定しております。

71ページをお願いいたします。

本市が令和7年度から開設する予定のこども家庭センターの概要について掲載しております。

こども家庭センターにつきましては、今後の子ども・子育て支援の中心となることから、こども計画においても重要な位置づけとしております。

72ページからは、第4章、施策の推進として、それぞれの基本目標に対しての現状、課題、今後の方向性、主な取組を掲載しております。

続いて108ページをお願いします。

(3) 地域ぐるみで展開する子育て支援策の充実という基本施策におきましては、①子育て世代を中心とした新たな交流の「場」の提供（「(仮称)篠原地区公園内こども体験学習施設」整備）につきまして、先ほど説明をいたしましたこども家庭センターと同じく、今後の子育ての中心として重要な位置づけとなることから、1つの項目として掲載しております。

今後の方向性の最後に記載しておりますが、子育て世代のほか多世代が交流可能な新たな場として、子供とその家族が毎日通いたくなるような魅力ある施設づくりを目指すことを掲げております。

続きまして、114ページをお願いいたします。

第5章、子ども・子育て支援給付及び地域子ども・子育て支援事業の拡充になります。

ここでは、本市の教育、保育施設及び地域子ども・子育て支援事業の需給計画が記載されており、市内在住の子育て世代の保育園や幼稚園、地域子ども・子育て支援事業の利用に関する見込数とそれに対応する確保数を施設、事業ごとに数値で示しております。見込量につきましては、さきに触れましたニーズ調査及び過去の利用実績を基に数値を設定しております。

続いて、140ページをお願いいたします。

第6章、計画の推進体制になります。

基本理念の実現に向けて計画の推進体制となります。点検及び評価、見直しは、子ども・子育て会議において行ってまいります。また、計画期間中であっても推計した児童人口や教育、保育事業における認定区分ごとの利用人数が本計画で見込んだ量と大きく乖離し、計画を見直す必要があると子ども・子育て会議で認められた場合には、量の見込み及び確保量について中間見直しを行い、適正に対応してまいります。

141ページをお願いいたします。

4、本計画における成果指標を掲載しております。

本計画に基づき事業を実施していくことで、より子供・若者が住みやすいまちにしていくための数値目標となっております。数値目標の設定には、今年度実施したアンケート調査を基にした目標を設定いたしました。

1つ目の「甲斐市は子育てしやすいまちだと思うか」の設問に「そう思う」「どちらかというと思う」を設定し、現状値は68.5%となっており、令和11年度の目標値につきましては78.3%といたします。

2つ目として、「今の社会はこどもまんなか社会の実現に向かっていると思うか」という設問に、「向かっている」「どちらかというに向かっている」と答えた割合を設定し、現状値の27.5%から目標値を63.5%とし、また、3つ目として、「こども政策に関して、こどもの意見を聞いてもらえていると思うか」という設問に、「そう思う」「どちらかというと思う」と答えた割合を設定し、現状値の31.8%から目標値を63%としております。

続いて、142ページをお願いいたします。

先ほどの成果指数の達成に向けて、第4章における各取組の達成目標指標を設定しております。こちらは今年度作成している総合計画や創甲斐教育との整合、調整を図っております。

最後に、子ども・子育て会議条例、委員の皆様の名簿掲載、策定やワークショップでの意見などをまとめたものを資料編として掲載する予定としております。

以上が甲斐市こども計画の概要となります。

なお、現在、上位計画となります甲斐市総合計画の策定も進められていることから、今後、数値等におけます若干の見直しが行われることもありますことをご了承いただきたいと思っております。

また、およそ140ページに及ぶ計画書となっていることから、内容を吟味していただき、ご意見等がありましたら、別紙の第1期甲斐市こども計画に対する意見・提言書により、12月4日水曜日までとなりますが、子育て支援課または議会事務局までご提出いただけるようお願いをいたします。

以上で、第1期甲斐市こども計画についての説明を終わります。

ご審議をお願いいたします。

○委員長（清水和弘君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

ここで、委員並びに職員各位に申し上げます。

質問は一問一答とし、また、質問、答弁は簡潔明瞭にさせていただきますようお願い申し上げます。

それでは、質疑等がありましたらお願いいたします。

谷口委員。

○委員（谷口和男君） これから子育ての課題ということで、10月9日付で山梨日日新聞に保坂市政5期目の課題というところで、南アルプス市の意見が載っているんですよね。その中で、南アルプス市では2022年度から保育の完全無償化と学校給食の無償化を実施して、

移住してきた人の中で甲斐市からは3割の方が移住してきているというような記事だったんですけども、この子育ての中で、いわゆる学校給食費とかそういうアンケートは実施されたんでしょうか。

○委員長（清水和弘君） 樋川子育て支援課長。

○子育て支援課長（樋川浩一君） 今回のアンケートの内容の中に、保育料の無償化ですとか副食費の無償化とか、そういった関係の内容というのは盛り込んでおりません。

○委員長（清水和弘君） 谷口委員。

○委員（谷口和男君） 盛り込んでいないということなんですけれども、今、全国的に30%の自治体が完全無償化という形を実施して、43%は一部無償化を実施しているという状況なんですよね。甲斐市でも10月から12月まで実施していただいて、非常に好評だということなんですけれども、計画策定するときに、やっぱり住みやすいまちづくりという面では、子育ての負担を減らすということも必要だと思うんですが、なぜそういうのが入らないのか、ちょっと疑問なんです。

○委員長（清水和弘君） 櫻田保育係長。

○保育係長（櫻田良文君） お答えいたします。

保護者に対する利用負担等の軽減について、本計画案の別紙資料の102ページになりますが、その中で保育料等の軽減ということで、現在、国の施策によって3歳以上児については保育料の無償化が実施されており、現在、甲斐市独自の施策である第2子以降に係る保育料の無償化を実施しているところでございます。

また、今後につきましても、保育料以外の保護者に係る利用負担についても軽減対策に努めるということで、今後の検討課題として盛り込んでおります。

○委員長（清水和弘君） 谷口委員。

○委員（谷口和男君） 盛り込んではいるとのことなんですけれども、私が聞きたいのは、その意見なんですよね。今後の意見というか。それについては、意見は聞いていないということでしょうか。

○委員長（清水和弘君） 戸澤部長。

○子育て健康部長（戸澤文香君） 意見のほうにつきましては、アンケートはある程度、国のほうの施策に基づいた体系になっておりますので、ただ、うちのほうでも副食費と給食費、それにつきましては市独自の支援を実施していくということになっておりますので、そちらのほうの実現はしていく形を取ろうと考えております。

○委員長（清水和弘君） よろしいですか。

そのほかございますか。

加藤委員。

○委員（加藤敬徳君） ちょっと140ページ、ボリュームがすごくあるので、内容をよく読まないで、またなかなかいいとか悪いとかと言えないんですけれども、きのう、ざっと見させていただいた中で、先ほどいろんな施策ということで、施策の年齢層を30代ぐらいまでに広げたというのはいいことだと思っているんですが、子育て健康部ということで、そこまでの施策をそこで考えていくのかというのを、ちょっとその辺を聞きたいんですけれども。

○委員長（清水和弘君） 樋川課長。

○子育て支援課長（樋川浩一君） 今回の計画につきましては、庁内でワーキング会議を重ねまして、いろんな関係課と連携をして今回の計画をつくっておりますので、子育て支援課、また健康増進課だけではなくて、いろんな関係した課の事業を今回盛り込ませていただいております。

○委員長（清水和弘君） 加藤委員。

○委員（加藤敬徳君） では、全庁でこういう計画をつくっているということでよろしいですかね。

○子育て支援課長（樋川浩一君） そのとおりでございます。

○委員長（清水和弘君） 加藤委員。

○委員（加藤敬徳君） そうということで、子育てとかそういったものはかなり細かく載っているんですけれども、いわゆる若者層ですよ、そこに対してどういうものやっていくのかというのは、あんまりそういうのがないように思うんですけれども、やっぱり社会を支えていく上で若者、例えば働く場所がもっとあればいいなんて話もアンケートで出ていたみたいなんですけれども、そういった部分の政策とか、そういったものをもっと盛り込んだほうがいいんじゃないかと思うんですけれども、多分、所轄が違うかと思うので、なかなかそういった話も出てこないと思うんですが、特にこの若者層の女性の動向の出入りというんですかね、そういった部分もよくチェックしていただきたいなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○委員長（清水和弘君） 樋川課長。

○子育て支援課長（樋川浩一君） 若者の事業につきましては、確かに決して多い状況では今はないとは思ってはおります。その中で、98ページのほうに婚活イベントとか結婚新生活支

援事業といった事業も今回掲載をさせていただいている中で、今後、若者に対する支援も充実させていく必要はあるのかなと考えております。

○委員長（清水和弘君） 加藤委員。

○委員（加藤敬徳君） 婚活支援もすばらしいとは思いますが、なかなか今の時代、価値観が多様化している中で、要するに結婚することが女性のそういった1つのあれではないというような時代になってきているという部分では、ただただ結婚しろ、結婚しろということでは、なかなかそういう女性層に響かないというような、この間テレビでやっていましたよね。そういった部分で、そういったものをもっとよく研究していかないと、なかなかそういった部分に乗り遅れると。婚活支援みたいなものはいろんなところでやってはいるんですけども、それが本当に効果をなしているかということ、なかなか難しい部分もあるようなので、その辺もっとよく研究していただきたいなど。

ちょっと意見ですけれども、以上です。

○委員長（清水和弘君） 滝川委員。

○委員（滝川美幸君） 根本的なことを確認いたしますね。

今回、第1期甲斐市こども計画という名前になるんですけれども、その前までは子ども・子育て支援事業計画というものが、今回、甲斐市こども計画ということになるんだと思うんですけれども、その中に、今の加藤委員のお話のように、40歳までを入れたというところで、非常に誰を対象にしているか分からない。40歳までの、要は結婚をしていない独身、独りである40歳までを対象でこれに入れているのか、そうしないと、子ども・子育てというところで既に40歳って親の分野に入ってくる、本来は。

それで、ここに一緒に甲斐市こども計画の中に、例えば先ほど書いてありました青年とかありましたよね、そういう言葉が一つも入っていない中で、甲斐市こども計画（案）ということがとても結びつかないような気がするんですけれども、これはこの言葉を使うのが国の方針なのでしょうか、その辺ちょっと伺いたいと思います。

○委員長（清水和弘君） 樋川課長。

○子育て支援課長（樋川浩一君） 冒頭でもご説明を一度させていただいているかと思うんですけれども、今回のこども計画につきましては、子ども・子育て支援事業計画、子どもの貧困対策計画、子ども・若者計画、この3つを一本化する計画というものが根本にあります。そんな中で、確かに若者イコール独身なのかということはあるかと思うんですが、正直、その辺の細かい示しというのはないものですから、本当に、例えば結婚される方、妊娠され

る方という方々も確かに若い世代の方々が対象になってくるのかなというふうな形の中で、そういったものも一部含んだ中での計画というふうに考えております。

○委員長（清水和弘君） 滝川委員。

○委員（滝川美幸君） こういうものを検討するときに、これに関わる私たちはそれが理解ができるんですけども、一般の市民、県民に出す場合に、例えばどこどこ市こども計画、何々町こども計画といったときに、やはり対象って一般的には子供を見ると思うんですよ。そこに、今の課長からのご説明はよく分かるんですけども、それであれば、甲斐市子どもプラス例えば若者計画とか、そういう言葉というのは使えないんでしょうか。

○委員長（清水和弘君） 戸澤部長。

○子育て健康部長（戸澤文香君） お答えいたします。

今回のこのこども計画という名前が今回初めて、多分、全国的にもあると思います。その中で、うちも今まで若者に関する計画ですとか、あと子供の貧困計画とかがない状況で今まで来たということもありまして、今回第1回目ということもありますので、国の指針に基づいて、あくまでもこども計画というものを定めた中に、若者、また子供の貧困も入れる形でスタートさせていただきたいと考えているところであります。

ですので、若者の事業が確かに見る限りだとあまり多くは入っておりませんが、例えば就労ですとか、そういうものへの取組は全庁的にやっているという部分の中で、こども計画自体は子育てだけのものではなくて、いろんな部署でやっているものを総まとめでということ考えていただければよろしいかと思います。

○委員長（清水和弘君） そのほかございますか。

滝川委員。

○委員（滝川美幸君） それはそれでいいんですけども、子供の貧困対策は当然このこども計画に入るべきものだと、これは理解します。

ただ、やはり若者も一緒というのがどうも、甲斐市が若者に対する対策が遅れているのであれば、それはそれで私がつくるべきだと思う。若者たちの就労の問題、それから結婚の問題というものは大きな問題ですので、そういうものは、私は本来であれば、このこども計画に入れるということが恐らく理解が難しいかなと、今の時点ではそんなふうに思いますね。

もし今後、もう少し若者たちのものに対して真剣に取り組むのであれば、また本来であれば別につくらなければ、子供と若者と、それから家庭を持った親の世代というのがごちゃごちゃで、ちょっと分かりにくいなど。今のところは、ちょっとまだ私自身が理解ができません

ん。

今のところは、それで結構です。

〔「委員長、暫時休憩しますか」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水和弘君）　じゃ、ちょっと休憩。

休憩　午後　１時５８分

再開　午後　２時０１分

○委員長（清水和弘君）　それでは、会議を再開いたします。

戸澤部長。

○子育て健康部長（戸澤文香君）　お答えいたします。

先ほどの滝川委員のほうの若者のいろんな支援のことにつきましても、このこども計画自体が39歳までの計画ということであれば、若者に対するものももう少し取組があってもいいんじゃないかということのご意見をいただきました。

今回、委員の皆様には意見・提言書ということで別紙のほうをお渡ししておりますので、またそちらのほうにもご記入いただく中、今後パブリックコメント等もごございますので、まだこれはあくまでも素案でございますので、うちのほうでも計画をちゃんとつくるまでの間、少し検討させていただきたいと思います。

○委員長（清水和弘君）　よろしいでしょうか。

滝川委員。

○委員（滝川美幸君）　十分承知しています。

第1期甲斐市こども計画（案）になっていますので、そういうところに例えば私なんかがこの意見書の中に、甲斐市子ども・若者計画という意見を出してもいいということですよ。いわゆる内容よりも、この見出しなんです、一番大事なのは。計画が何の計画かということなので。そのところを今私は言ったので。先ほど加藤さんが言ったのは、もっとそこを細かくしろということなんですけれども、私が言ったのは、まず、第1期甲斐市こども計画のところに入れば、これは非常に整合されるんですが、それが無いのでという意見を言わせていただいたので。ありがとうございました。

○委員長（清水和弘君）　そのほかございますか。

金丸委員。

○委員（金丸 寛君） この資料自体が、今回の計画、膨大な分量になるわけですがけれども、私もちよっと読み始めたんですけれども、途中で根負けして途中で終わっている段階ですがけれども、そもそも今回こういう計画（案）が出てきたということは、国のこども基本法、これがベースにあって、これを市の段階でも落とし込んでやろうという段階だと思いますけれども、先ほど谷口委員からも質問ありましたけれども、学校給食等が最たる子ども・子育ての支援の根本にあるんじゃないかなと私は思います。

そういったところで、今回の市長選でも、県が2,000万円ぐらいのお金を出すから、それを甲斐市は10、11、12月の学校給食の補填をするというような考え方を発表されていましたがけれども、現市長も選挙といいますか議会を通じて、学校給食、これは行く行くは国が全国的に支援するべきものだからというようなことで、甲斐市としては先ほど言ったような支援の段階で止めておるといふようなことをおっしゃっていますけれども、基本的に他の市町村でもできていることが、甲斐市は他市町村に先駆けて先頭を切ろうじゃないかというような意気込みもあると伺っていますけれども、そこがどうも市民目線からしたら、どうして甲斐市はやってくれないのと、できないのと、そんなに予算がないのというようなこと。予算というのは、やはりあらゆるところから引っ張り出して、やろうと思えばできる計画だと思うんですよ、学校給食完全無償化って。

○委員長（清水和弘君） 金丸委員、もう少し端的に言ってください。

○委員（金丸 寛君） 端的に。要するに、国が言ったからこれを計画立てたよという膨大なものを我々にも提示していますけれども、基本に流れるものがちょっと欠けているんじゃないかなと。要するに、こういうことをやろうというところの何か意気込みが、こういった計画、上ずっぱりの計画でしかないように私は思うけれども、市当局としてはどのような考えでこういったものを出してきているか、そこを伺いたい。

○委員長（清水和弘君） 戸澤部長。

○子育て健康部長（戸澤文香君） お答えいたします。

冒頭にありました給食費の関係につきましては、先ほど谷口委員のほうでもお話をさせていただきましたとおり、独自の支援策ということで、計画のほうにはそういう言葉で書かせていただきました。

また、市独自のものということなんですけれども、計画書の中、教育・保育事業の量の見込みですとか、あとは地域子育て支援拠点、地域の子ども・子育て支援事業の量の見込み、

こういうものに関しては、全て甲斐市独自の数値ですとか今後の見込み、また確保方策について書いたものになっておりますので、決して国のほうでは、ここの何事業かを入れなさいというのはありますけれども、それぞれの確保量の考え方、また確保の方策、今後の方針につきましては、全て市独自で考えたものになっておりますので、決して形だけのものではないということをご理解いただきたいと思います。

○委員長（清水和弘君） 加藤委員。

○委員（加藤敬徳君） ちょっと確認なんですけれども、これからまたそういうもの、この計画をまとめていくということなんですけど、例えばアンケートの結果みたいなものは、もうこれを使うということによろしいんですかね。

○委員長（清水和弘君） 樋川課長。

○子育て支援課長（樋川浩一君） アンケート結果につきましては、既に終了しておりますので、今回提示させていただいている内容で進めさせていただきます。

○委員長（清水和弘君） そのほかございますか。

保坂副委員長。

○委員（保坂 康君） 今回、この間もちょっと説明聞きましたけれども、こども計画ということで、部署単独じゃなくて、各部署そろって市で一丸となってやっていくというふうな、この文書関係を見るとそういうふうな思いが強いんですけれども、本当に先ほど加藤委員も言われたように、子供たち、就労がなくて外へ出ていっちゃうとか、やっぱりそういうふうなものがありまして、ここばかりじゃないんですけれども、やっぱりある程度こういうふうな計画を立てて実行をしてやっていかないと、まだまだ今から人口が減っていく、これもう目に見えていますので、その辺はやっぱりチームとして、一課としてじゃなくて全課で取り組んでいってほしいなというふうに思いますけれども、市としてもその方向でいっているということによろしいでしょうかね。

○委員長（清水和弘君） 樋川課長。

○子育て支援課長（樋川浩一君） お話いただいたとおり、担当課だけではなくて、子育て支援課、健康増進課をはじめ、教育委員会ですとか福祉部局はじめ、いろんなところと連携をする中で、事業をよりよいものにしていきたいと考えております。

よろしく願いいたします。

○委員長（清水和弘君） そのほかよろしゅうございますか。ありますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水和弘君） なければ、質疑を終了いたします。

以上で、第1期甲斐市こども計画（案）についてを終わります。

引き続き、次第の4、その他に入ります。

委員より、常任委員会関係でその他何かありましたら、お願いします。ありませんか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水和弘君） それでは、事務局より何かありますか。

深澤書記。

○書記（深澤隼人君） 事務局から2点お願いいたします。

9月30日に行いました厚生環境常任委員会の懇親会及び10月31日、11月1日の厚生環境常任委員会視察研修の精算報告書を併せて配付させていただきましたので、ご確認お願いいたします。

また、視察研修に関しましては残金がありますので、委員会終了後にそれぞれ精算させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

事務局からは以上です。

○委員長（清水和弘君） よろしければ、その他を終了します。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了しました。

これをもちまして、厚生環境常任委員会を閉会します。

ご苦労さまでした。

閉会 午後 2時10分